



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツクラブ  

スポーツ振興くじ助成事業

特集

- ▶▶▶ 総合型クラブの質的充実に向けて
～PDCAサイクルを回し持続可能なクラブ運営を目指そう～

自己点検・評価に取り組むクラブ

- ▶▶▶ NPO法人エンジョイスportsクラブ魚沼
- ▶▶▶ こうかサスケくらぶ

特別企画 女性が活躍するクラブ・連絡協議会

- ▶▶▶ 伊勢原・ふれすぽ
- ▶▶▶ SCネットワークあいち

連載 みんなで盛り上げよう！

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

- ▶▶▶ 未来につながる「東京2020参画プログラム」
～全国から東京2020大会を盛り上げよう～

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

総合型クラブの質的充実に向けて ～PDCAサイクルを回し持続可能なクラブ運営を目指そう～

国が総合型地域スポーツクラブ(以下「総合型クラブ」又は「クラブ」)の育成モデル事業を推進してから約20年が経過しました。先駆的に総合型クラブの設立及び運営を担ってきた第一世代の関係者の熱意と努力及びその成果を、今後は第二世代以降の次世代に発展的に引き継いでいくことが求められています。

また、平成29年3月に策定された第2期スポーツ基本計画では、「総合型地域スポーツクラブの質的充実」に向けた具体的な施策として、PDCAサイクルにより運営の改善等を図る総合型クラブの増加が掲げられる等、総合型クラブを持続可能な「社会的な仕組み」として地域に定着させる取組が重要になっています。

1. 概要

日本スポーツ協会では、平成26年度に文部科学省から委託を受け、各種調査※1を実施した上で、クラブが継続的・安定的に活動を行うために目指すべき「指針」と、「指針」への到達に向けて取り組むべき方向性を「評価指標」として、以下のとおり取りまとめました。

指針		評価指標	
諸資源の獲得	① 活動基盤の整備	各段階	数値化
	② 連携体制の確立	基盤	総合型クラブの創設・自立に向けて、活動基盤を整備している段階
組織体制の整備	③ 理念の共有	↓	
	④ 自発的(ボランタリー)組織特性	発展	一定の活動基盤を整備し、充実した活動を行うための体制整備に向けた発展段階
	⑤ 日常生活圏	↓	
成果の創出	⑥ 事業の多様性	充実	一定の充実した体制を整え、さらなる持続可能な体制整備を行っている段階
	⑦ クラブライフの定着	↓	
		持続可能	指針に示した内容を満たし、持続可能な体制を十分整備している段階

第2期スポーツ基本計画では、PDCAサイクルにより運営の改善等を図る総合型クラブの増加を数値目標としております。
★平成27年度現在37.9%
→目標70.0%

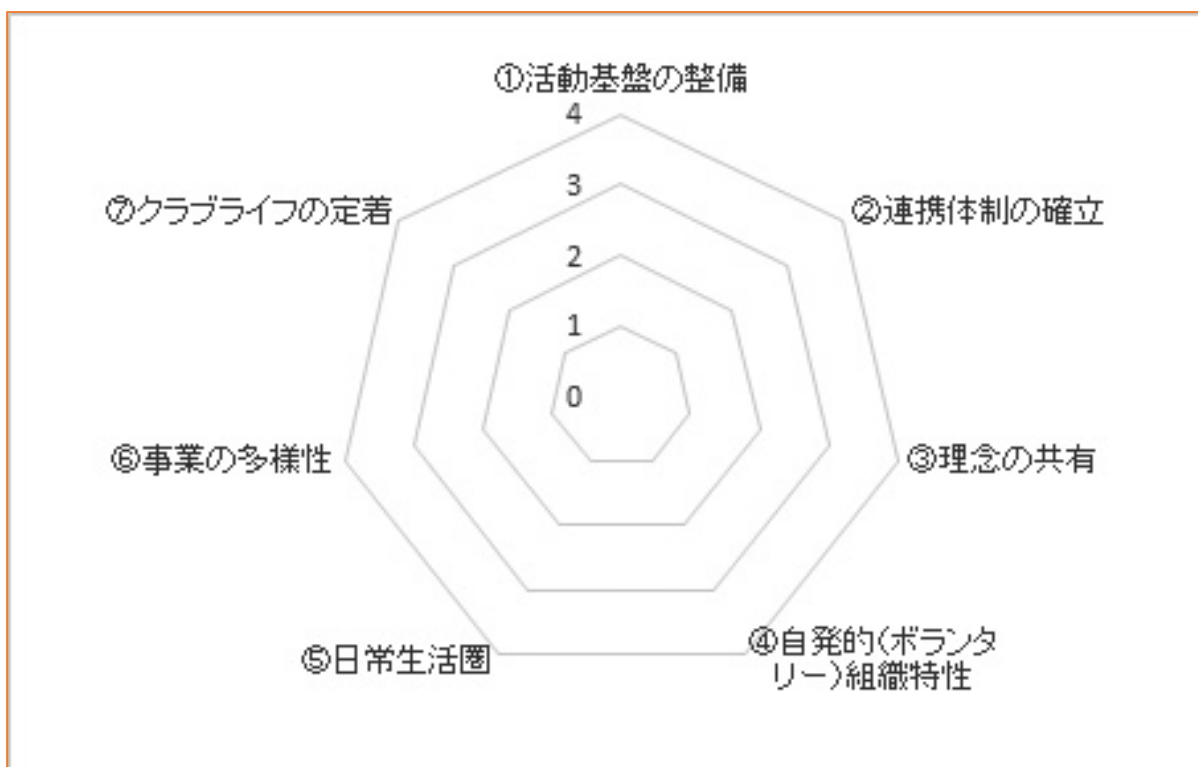


各クラブは、これら「指針」において、クラブが現在どの段階にあるのか「評価指標」を用いて自己点検・評価することで、適切な現状把握を行うことができるとともに、持続可能なクラブ運営に向けて、次の目標(段階)を見据えた着実なステップアップが可能となります(PDCAサイクル※2)。

自己点検・評価結果は以下のとおり、レーダーチャートで可視化されますので、クラブの特徴や課題を具体的に把握することができます。

自己点検・評価は、本会ホームページに掲載しているエクセルを使用して行えます。

[こちら](#)をクリック！



2. 効果

実際に、自己点検・評価を実施したクラブからは、複数名のスタッフで実施することで、それぞれが考える「クラブの現在地」が、実は違っていたということが分かり、それを機に改めて「クラブ理念の共有」を図るきっかけとなったという感想も聞こえています。

詳しくは、自己点検・評価の取組を通じて、上記のような効果が得られているクラブの声を下記URLからご参照ください！

[NPO法人エンジョイスポーツクラブ魚沼](#)

[NPO法人こうかサスケくらぶ](#)



3. さいごに

総合型クラブは、所在している地域の人口等、置かれている環境が各クラブによって様々です。また、創設後の年数によって運営上の課題の優先順位も変わっていくことでしょう。

このため、自分のクラブの自己点検・評価結果と他のクラブの結果を比較し、自分のクラブの数値が低かったからといって、それがイコール悪い結果だと断言できるものではありません。逆に数値が高かったから良いということでもありません。

あくまでもクラブの自己点検・評価であり、クラブの現在地や成長度を把握するためのツールとして活用してください。

ぜひ自己点検・評価を定期的に行っていただき、全国のクラブが持続可能な「社会的な仕組み」として地域に定着できるための一助となればと思います。

※1:平成26年度文部科学省委託事業【スポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業】

「持続可能な総合型地域スポーツクラブを目指して」(平成27年3月:公益財団法人日本体育協会)

※2:PDCAとは、P(Plan「計画」)・D(Do「実行」)・C(Check「検証」)・A(Action「改善」)の頭文字から名付けられた効率的な業務遂行のサイクルを表した考え方。

「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」(平成30年4月1日:公益財団法人日本スポーツ協会)

参考

■ [「持続可能な総合型地域スポーツクラブを目指して」調査報告](#)

(日本スポーツ協会 ホームページ)

■ Sports Japan 2015年7・8月号(Vol.20) 紹介記事

[「持続可能な総合型クラブの推進に向けた取組の指針と評価指標」に見る総合型クラブの将来](#)

Sport Japanのご紹介

日本スポーツ協会情報誌である「Sport Japan」は年間6回(うち2回特別増ページ号)発行し、スポーツ指導者、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブをはじめとするスポーツ関係者の皆様はもとより、様々なスポーツ愛好者にとりましても有益でタイムリーな身近な情報の発信に努めています。

バックナンバーや購入のお申込みはこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid660.html?catid=33>



特集

自己点検・評価に取り組むクラブ

NPO法人エンジョイスportsクラブ魚沼 ＜新潟県魚沼市＞

自立・自律したクラブへと至るためには、クラブ理念を踏まえ、将来的な到達点を明確にした目標を設定する必要があります。そして、その達成に向けた具体的な取組計画を策定した上で、計画に基づく活動を着実に実行し、その内容及び効果を定期的に検証することによって常に改善を図っていくといったPDCAサイクルによって取り進めることが重要です。

そこで、今回は、日本スポーツ協会が2014年度に作成した「持続可能な総合型クラブの推進に向けた取組の指針と評価指標(以下「自己点検・評価」という。)」の活用方法と実際に「自己点検・評価」を活用するクラブの事例を紹介します。



1 クラブ概要

安定経営目指し設立準備に3年の歳月

平成9年に、体育指導委員事業(現スポーツ推進委員)の参加者減が月例会議で取り上げられ、個人のスポーツの価値観の変化に対応するため、総合型地域スポーツクラブの検討が始まりました。総合型クラブを正式に立ち上げる前に「子供スポーツクラブ」を平成11年に立ち上げ、その後、体育協会、スポーツ少年団、教師、公民館、地域スポーツ愛好者代表に呼びかけ、行政内に準備委員会を設置しました。クラブのあるべき姿を模索する中で、クラブ設立後にスポーツ振興くじの補助がなくなることから、安定経営のために運営資金の確保を中心に据え、設立準備に3年の年月をかけ万全を期したうえでクラブづくりを進めました。

クラブ設立後15年間、自主財源率100%を継続

平成13年、14年とスポーツ振興くじの補助金を使い、社会体育事業と介護予防事業、すでに立ち上げた子供スポーツクラブなどのプレ事業のプログラムを行政に提案し、すべて受託事業として委託を受けました。クラブ全体の収入に占める受託プログラムの割合は85%、2700万円になります。平成15年クラブ設立後、15年間自主財源率100%を続けています。クラブの理念である、「子供たちをスポーツ好きにする活動」、「医療費、介護費用の削減」、「住民のだれもが気軽にスポーツに親しめる機会の提供」、「クラブに加入した既存団体支援と指導者育成」、「スポーツを通じた、健康で明るく活気に満ちたまちづくり」を実現するための資金はすべてここから生み出されます。

指定管理受託後に経費削減・業務見直し→器具備品を行政に寄付

平成19年からはスポーツ推進委員業務がクラブへ委託され、増えすぎた委員の削減を図るため「適正人数」を設定したほか、参加者に対する受益者負担の徹底等で、クラブは妥当な受託額の獲得、行政は大幅な予算削減を実現しました。さらに平成25年から体育館の指定管理を受託し、5年間で経費削減、業務見直しで生み出した資金で購入したランニングマシン5台やアリーナ照明ほか多数の器具備品を行政に寄付しました。設立時からプログラムにほとんど変化は無く、介護予防、健康づくりを中心に全くぶれないクラブ経営を続けて16年目を迎えます。

2 健全経営実現へ内部評価制度を採用

健全経営がクラブ理念を実現していくという考え方から、内部評価制度(定員充足率やアンケート等の評価)を平成23年から取り入れています。

参加者満足度などプログラム別に評価

プログラム名	登録者数(参加者)			定員充足率			参加者満足度(%)			事業全体評価			事務局所見	事業趨勢
	前々年	前年	今年	前々年	前年	今年	前々年	前年	今年	前々年	前年	今年		
高齢者筋力向上トレーニング事業400	425	422	384	106%	106%	96%	90%	90%	90%	4.2	4.2	4.2	市の委託内容が同じため、大きな変化なし	→
健康運動教室 小出15	16.7	16.3	16	111%	109%	107%	85%	85%	84%	4	3.9	4.3	参加者が固定化 条件評価はアンケートによる	→
健康運動教室 広神20	15	12.3	19	75%	62%	95%	78%	70%	84%				参加者数が回復 条件評価はアンケートによる	→
健康運動教室 守門20	13	10	11	65%	50%	55%							公民館事業が全く同じため廃止	↙
出前健康運動教室60		49	56		109%	86%		85%	79%				小平尾・入広瀬・伊米ヶ崎・千溝で開催 全会場で好評	→

※プログラムの数字は定員数

このようにして、クラブの稼働率や参加者に対する満足度アンケート、事業条件によるトータル評価、そして事務局所見などを参考に、今後の方向性を見いだしています

経理ソフトを活用し経営分析→安全性をチェック

定員充足率や参加者に対する満足度アンケートなどの評価に加えて行っているのが、経理ソフトに備わっている経営分析機能です。プログラム別や全体の利益率、クラブの貯えの推移などの数字を基に、持続可能なクラブ運営のための安全性をチェックしています。



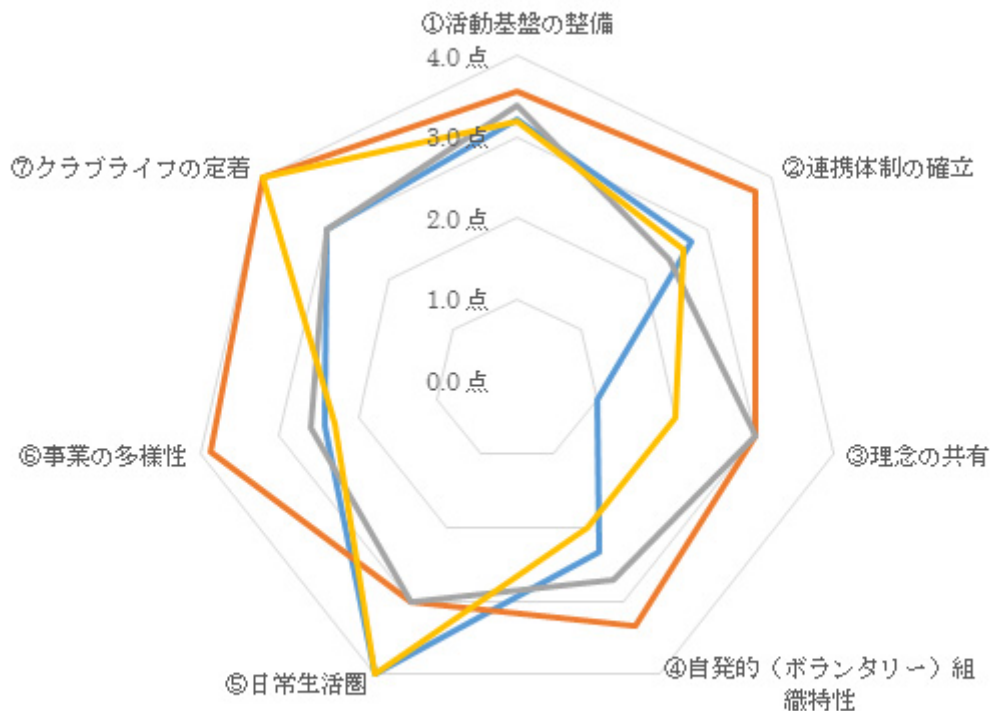
3 自己点検・評価を平成28年から導入

内部評価を補うチェックシート7項目

今まで行った内部評価で決定的に足りない部分（チェックシートの7項目）は、クラブ構成に欠かせない要素です。まさにその部分が「自己点検・評価」で取り上げられている部分であり、「①活動基盤の整備 ②連携体制の確立 ③理念の共有 ④自発的（ボランティア）組織特性 ⑤日常生活圏 ⑥事業の多様性 ⑦クラブライフの定着」の各項目でした。そこで、平成28年から年に1度この自己点検を行うこととしました。

常勤スタッフ4人がチェックシート記入

当クラブでは常勤スタッフ4名で別々にチェックシート記入し自己点検を行いました。



総合型クラブの自己点検・評価の結果（7項目）

上記の図は4人がクラブの「自己点検・評価」を行った結果を一つのグラフに落とし込んだものです。

青：アドバイザー（経験20年） 黄：マネジャー（経験13年）
グレー：サブマネジャー（経験12年） 橙：新人スタッフ（経験3年）



結果を4人全員で分析

この結果をスタッフ全員で話し合い、分析を行いました。新人スタッフを除くと、経験豊富な人はほぼ同じ捉え方をしています。新人に関しては、大きな7角形を示しています。入社以来、アドバイザーから目指すクラブの在り方を新人に説明してきたことにより、良いところが象徴的に見えているのかもしれませんが、クラブのことが、まだよく見えていないのかもしれません。

理念の共有で認識異なる

大きく結果が違ったのは、理念の共有です。経験20年の青は極端に点数が低くなっています。低くなった理由としては、スタッフにより理念の共有方法や共有実感が異なること等と考えられます。

4 身の丈にあった経営規模を継続

更なる事業の拡大は現事業に支障も

この取り組みで4人が認識したことは、決して大きな7角形の結果でなくても良いのではないかとということでした。

私たちのクラブは、出来るだけ身の丈に合った経営規模でクラブの質を高めることにこだわってきました。例えば、⑥事業の多様性の面では、現時点ではこれ以上必要ないとの結論です。また、②連携体制の確立という面でも、連携先が更に増えることは今の事業に支障をきたすのではないかと判断に至りました。

複数の評価ツールを機能的に活用→クラブスタイルを見直し

様々な「自己点検・評価」の項目は、クラブを今後どのような形にしていきたいかというコンパスであり、「必要なもの、そうでないものの取捨選択」のツールだと思います。実際みんなで作業をしていく中で、私たちのクラブスタイルを見直すことができました。

クラブ理念を実現するための経営資金の確保、そして経営資源の確保。そのためのプログラム評価、経営指数評価、そしてこの「自己点検・評価」ツールをうまく組み合わせ、より個性的な持続可能クラブをつくっていきたいと思います。

NPO法人 エンジョイスポーツクラブ魚沼 アドバイザー 高木 貞介



クラブプロフィール

設立年月日 平成15年7月6日

所在地 新潟県魚沼市堀之内130番地

運営 会員数635名(平成29年7月現在)、予算規模3,240万円(平成29年度)

有給職員 4名

特徴 市町村合併後を見据えて設立し、合併後、旧町村単位の5地区のサテライト化でクラブ経営の効率化と運営資金確保を実現しているクラブです。運動好きな内科医の理事長、健康運動指導士のマネージャー、スポーツ専門学校出身で各種の資格を持つサブマネージャー、簿記に明るく社会体育畑を長年経験したアドバイザー、福祉分野の学部を卒業した新人スタッフなどのプロスタッフが揃っています。そのような多様な人材をベースに、行政と良好な関係を築いているクラブです。

連絡先 〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内130番地

電話 025-793-7166 FAX 025-793-7164

E-Mail espo@espouonuma.com

URL <http://espouonuma.com/espowp/>



高齢者介護予防教室



ウォーキング



健康づくりプログラム



ダンス教室



特集

自己点検・評価に取り組むクラブ

NPO法人こうかサスケくらぶ ＜滋賀県甲賀市＞

自立・自律したクラブへと至るためには、クラブ理念を踏まえ、将来的な到達点を明確にした目標を設定する必要があります。そして、その達成に向けた具体的な取組計画を策定した上で、計画に基づく活動を着実に実行し、その内容及び効果を定期的に検証することによって常に改善を図っていくといったPDCAサイクルによって取り進めることが重要です。

そこで、今回は、本会が2014年度に作成した「持続可能な総合型クラブの推進に向けた取組の指針と評価指標(以下「自己点検・評価」という)」の活用方法と実際に「自己点検・評価」を活用するクラブの事例を紹介します。



1 クラブ概要

私たちの地域では昭和56年の国民体育大会(びわこ国体)を機に「スポーツ都市宣言」を掲げ、地域住民のスポーツ振興に力を入れるとともに、すべての地域住民がスポーツに親しむ明るく住みよいまちづくりに努めてきました。しかしながら、総合型地域スポーツクラブ設立検討委員会で実施したアンケート調査では、週1回以上スポーツを行っている成人の割合は、4人に1人という結果で、他の地域の実施率を大きく下回っていました。

そこで、まず健全な子どもの育成を願い、小学生の多種目型スポーツ教室を開講しました。これを機に、子どもから高齢者まで多世代にわたり、「いつでも、どこでも、だれでも」気軽にスポーツが楽しめる総合型地域スポーツクラブ「こうかサスケくらぶ」を設立し、地域のコミュニティの活性化と、健康で明るいまちづくりを目指して活動してきました。現在8教室と障害者スポーツ教室を開催し、その他イベントや大会も計画しています。



2 運営委員会内のクラブ認知度の認識に温度差 →自己点検・評価導入用

随時開催される運営委員会(理事10名+教室担当スタッフ3名)でクラブの地域における認知度が話題になり、委員の認識を集約してみると「1割台」から「7~8割は知ってもらっている」まで様々な意見が出ました。そこから、担当以外の教室の様子や会員の意識変化、クラブ運営状況等、運営委員が知らない情報の存在を課題として考えるようになりました。

3 委員全員で現状把握 行動すべき事項が浮き彫りに

各委員が意見を出し合い情報共有

自己点検・評価は年1回実施しています。各自が点検表に記入するのではなく、運営委員会の時間を30分割いて、出席した委員全員で自己点検・評価表の7つの指針について項目別に現状把握します。この過程で、委員全員が各自の意見を出し合って情報を共有していきます。毎回全員は参加出来ませんが、10年後のために今求められている行動を認識することができました。

7つの指針の自己点検・評価結果ですが、③「理念の共有」④「自発的(ボランティア)組織特性」⑤「日常生活圏」⑥「事業の多様性」の4項目の点数が2点以下となりました。今求められている行動としては、最も必要なのが③「理念の共有」で、2番目が⑥「事業の多様性」と⑤「日常生活圏」、そして3番目が④「自発的(ボランティア)組織特性」です。

7つの指針のうち運営委員会で出た意見から現状改善が必要と判断され、実際に行動を起こしたのは次の2項目です。

②「連携体制の確立」

各理事が所属している自治振興会(甲賀町内に3振興会)に積極的に働きかけようとの意見が出て、イベント等に参加・出店し「たこ焼・カキ氷・綿菓子・ポップコーン」等で活動資金を調達し始め、徐々に資金が増えています。

③「理念の共有」

クラブの思いを伝えようとの意見から、町内23区の区長にお願いし全戸に広報紙サスケを不定期ながら配布しています。



10年後を見据え実際に着手した「今すべき行動」

- ① 各教室開催の冒頭、会員の皆様にクラブ設立の趣旨を説明するとともに、法人化した思いを伝えました。
- ② まずスタッフが楽しむための「釣り教室」「遠足教室」を開講し、「ゴルフ教室」ではコンペ回数を増やしました。
- ③ 協力者の発掘(会員や知人に声をかけました)
- ④ 事実上幽霊となっている会員・スタッフの整理
幽霊会員 = 年会費納入時に保険の強制加入をお願いしました。
幽霊スタッフ= 設立当時の体育指導委員、行政職員、スポーツ振興くじ助成事業の関係で一度でも関わっていただいた有資格者の方で、過去2年間に関わりのなかった方は除外しました。

4 教室会員からの協力者が増加 クラブ役員の意識も変化

自己点検・評価を採用したことでクラブにもたらした効果と影響は以下の4項目です。

- * 幽霊会員がなくなり、4月1日現在160名の会員でコンパクトに活動ができています
- * スタッフ登録をしていない各教室会員からの協力者が増えました
- * 自治振興会や自治会から出前講座の依頼があります
- * クラブ役員も、担当ではない教室への理解が深まり、会議への出席率が向上しました

5 地域に合ったクラブを模索 若手後継者の発掘が課題

自己点検・評価を活用したことで、クラブがステップアップするために行うべき事項は認識できていますが、現状では委託事業、指定管理業務等を受ける力がないのがクラブの実態です。ただ、基礎は出来つつあり、自己財源率も95%を超えました(平成29年度末)。甲賀の地に合ったクラブを模索しながら日々試行錯誤という状況です。

また、後継者の問題もあります。設立13年目ですが、当初からのスタッフで運営している状況です。高齢化率が40%近い地域であるため、若いスタッフの発掘が悩みとなっています。

こうかサスケくらぶ クラブマネジャー 大原 克彦





こうかサスケくらぶ

クラブプロフィール

設立年月日 平成17年 2月27日

法人化 平成25年10月15日

所在地 滋賀県甲賀市甲賀町相模

運営 会員160名(平成30年4月1日現在) 予算規模260万円(平成29年度)

有給職員 1名

特徴 対象人口11,000人、滋賀県南東部、鈴鹿山系の麓。甲賀忍者発祥の地。街には3小学校1中学校、ルネス学園があります。甲賀公園体育館を中心に甲賀グラウンド、テニス場、フットサル場、生涯学習館で活動しています。小中学校の体育館、グラウンドは使わなくても活動ができます。その他町内にはB&G温水プール、トレーニングルーム、野球場、夢の森広場など沢山の施設があり、町民はプール・トレーニングルーム以外は無料で使用できるため、会場に困ることはありません。

連絡先 〒520-3434 甲賀市甲賀町相模124-7(甲賀中央公園集会所内)

電話 0478-88-5900 FAX 0748-88-3119

E-Mail info@sasuke-club.jp

URL <http://www.sasuke-club.jp>



特別企画

女性が活躍するクラブ・連絡協議会



伊勢原・ふれすぽ 〈神奈川県伊勢原市〉



総合型クラブの活動基盤・活動環境をより充実させるためには、地域住民から必要不可欠な存在であると認識されることが重要であり、そのためには、地域づくりまでも視野に入れ、スポーツの「楽しさや喜び」を拡充し普及させる「公益的な活動」を行うことが求められます。

したがって、クラブ運営を担う人材は、クラブマネジメントに関する一定の知識・技能に加え、幅広い視野と見識を培い、地域住民と共に地域課題の解決ができる資質・能力を重視する必要があります。

そこで、今回は女性の視点をクラブ運営に取り入れ、女性が多く活躍する仕組みをつくる連絡協議会やクラブの取り組みを紹介します。

今回の特別企画では、神奈川県の伊勢原・ふれすぽにお話を伺いました。

1 クラブ概要

平成27年3月に設立された伊勢原・ふれすぽは、伊勢原市成瀬地区を活動拠点に地域にコミュニティの場を提供し、地域住民参加型の事業を行うことを目的とする総合型地域スポーツクラブを目指している。育児世代からシルバー世代の方々まで、日頃の運動不足解消やリフレッシュにつなげ、子育ての悩み等も共有できる地域の仲間づくりを図っている。

会員数は100名を超え、育児世代の女性を中心にシニアも参加できる教室を実施。事務局スタッフは女性4名、インストラクターは6名(女性5名、男性1名)、監事1名(男性)と、女性中心の運営で成り立っている。クラブが標榜しているのは、「①子どもから高齢者まで(多世代)②様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)③初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)」総合型地域スポーツクラブだ。



2 女性による運営で各種定期教室開催、子育てママさん多数参加

スペース狭く少数定員制を採用 幅広い年齢層のママさんが会員

平日の午前中に「ノルディックウォーキング」「ヨーガ」「エクササイズ」「バランスボール」「ピラティス」「骨盤調整」「ダイヤビック」の各種定期教室が実施され、若いママさん世代からシニア世代まで幅広い層の会員が、伊勢原市体育館、石田スポーツプラザ、マンションの集会所などを活用して汗を流す。各教室とも会場スペースの関係から10人～15人の少数定員制を採用しているが、ママさんたちの「体を動かしたい」という熱気であふれている。筆者が訪れた石田スポーツプラザでのバランスボールのBBM(バランスボールメイク)教室では、女性インストラクターの声が響きわたり、会員がそれぞれの運動能力に合わせバランスボールと奮闘していた。一見簡単そうだが、実際は身体への負荷がじわじわと高まっているはず。教室終了後、参加者は心地よい汗をタオルで拭い、笑顔でプラザを後にする姿が印象的だった。

参加しやすい時間設定と都度参加費500円を採用

教室の午前実施はママさん世代への配慮だ。朝食、洗濯などの家事を終え、学校が終わる前の屋こりに帰宅できる時間帯が最も参加しやすい。開催日も、エリア内の学校行事を事前確認し、行事と重ならないよう気配りされている。年会費は負担感を少しでも軽減したいとの事務局側の判断で3,000円(60歳以上は2,500円)に設定され、気軽に出席しやすいよう参加費は都度払いで1回500円となっている。教室の雰囲気や気軽に参加できるシステムが気に入って、1年経過後には別の教室で体を動かす会員も多い。

3 会員からも信頼される女性インストラクター

運動能力に合わせ無理なく指導

クラブ訪問時にBBM教室を指導していたのはインストラクターの成澤絵梨香さん。教室に参加していた会員さんは、年齢層に幅があり、それぞれの運動能力にも個人差がある。成澤さんは自ら体を動かしながら「この動きがきつい方は、このへんまで動かせばいいですよ」と優しくアドバイスを与え、参加者は自分の能力に合わせ無理なく体を動かしている。

他クラブにはないフレンドリーな雰囲気

他のクラブでも指導する成澤さんは、「ときには育児相談もしながら楽しくやっています。このクラブはフレンドリーでいい雰囲気ですね。会員さんとは遠からず近からず、いい関係が生まれています。これって他のクラブにはないですね」と、自信を持って伊勢原・ふれすぽの良さをアピールする。会員へのアンケートも実施されているが、クレームは一度もなく、成澤さんは「会員の『きつい』『疲れた』は、いい意見と捉えている」そうだ。



インストラクターの発案が運営委員会に反映→教室の種類が増加

月に1回、木曜日の午後に運営委員会が設定されている。事務局スタッフ、インストラクターらで構成される同委員会では、単刀直入な意見や提言が交わされている。委員会は月1回の開催のため、普段の教室の場でも事務局スタッフとインストラクターが積極的に意見を交わし、会議の場になっても意見が言いやすい雰囲気を作っているという。設立当初は若いママさんをターゲットにしていたため、エクササイズ中心の教室展開だったが、シニアを含めた幅広い年齢層が参加しやすい教室を徐々に増やしてきた。「自分がやる気を見せれば運営委員会が動いてくれる」と成澤さんが強調するように、インストラクターたちの発案で新たな教室が開設され、クラブの広がりにつながっている点も見逃せない。

4 「育児世代の女性にも運動の場を」 —女性の代表・副代表が奮闘

元スイミングインストラクターの小倉さんと中村さんが一念発起

クラブ発展のキーとなったのは二人の女性だった。クラブ代表の小倉留美江さんと同副代表の中村裕子さん。平成23年4月ころ。伊勢原市では30代～40代の市民が最も運動する機会が少ないというデータを目にした。「子どもを産んで、子育てに追われるママさんたちが運動するには何がいいのか」。そう思案していた小倉さんと中村さんに、市のスポーツ課から「総合型クラブをつくりませんか」という提案があった。

二人ともスポーツクラブでインストラクターとしてレッスンをしていた経験もあり、新たな試みに挑戦しようとして一念発起、平成27年3月にママさんを対象とした総合型地域スポーツクラブを設立した。当初は元県庁職員、講師の男性2人、元スイミングインストラクターの女性2人の協力を得て6人でスタート。最初は会員よりもスタッフの方が多い時期もあったが、「子育てでモヤモヤしてそうなママさんに声をかけた」結果、会員数が徐々に増えるようになった。

運営面で協力し合う「女性ならではの名コンビ」

クラブが軌道に乗った大きな要因は、小倉さんと中村さんとの「女性ならではの名コンビぶり」に他ならない。小倉代表が「副代表と二人で協力し合っている。一人で動くのではなく、必要なところは二人で考え行動している」と言えば、中村副代表は「情報共有を一番大切にしている。お互い信頼し合って役割を分担している」。こう話す二人の表情は実に生き生きとしている。神奈川県体育協会の内田佳彦クラブアドバイザーも「それぞれが責任感とプロ意識を持ってクラブを運営している。それに、副代表は代表をうまく立てている」と、二人の名コンビぶりに目を細める。とはいえ家族の理解と協力は不可欠だろう。「土日にクラブに出ても家族は気持ちよく送り出してくれている」(小倉代表)ところも、クラブ運営成功の要因の一つだろう。



クラブ成功の秘訣は「無理をしない」

そして中村副代表が付け加えた。「他のスタッフにも、土日出るときは家族の了解をもらうよう指示している。家庭を最優先とし、無理をしないで出来ることをやってもらう。それはスタッフも会員さんも同じ。『無理をしない』、これが午前中のみ開催という教室スケジュールにも反映されています」。

伊勢原・ふれすぽが軌道に乗っている一番の秘訣は、この「無理をしない」という基本方針に違いない。

5 広い教室スペースどう確保 自然体で継続し自立の道を

直面しているクラブの悩みは教室会場のスペース。今年4月の会員数は122名だが、今年中に160名に増やすことを目標にしている。そのためにも現状よりも広い教室スペースを、どう確保するか。いずれ訪れる、補助金がなくなる時に備え、今から自立の道を切り開く必要もある。

だが、代表と副代表に焦りはない。「同じスタッフで何か新しいことをやりたいが、まずは地道に長く継続していきたい」(小倉代表)と、あくまで自然体を崩さない。中村副代表は「クラブを運営していることで社会に携わっている感覚が自分にある。そして責任感も芽生えている」と、実感をこめる。二人がこの気持ちを保ち続けていけば、伊勢原・ふれすぽが更に発展し、会員数も増加していくと筆者は確信した。

時事通信社 編集局編集委員 滝川 哲也



左:小倉代表、右:中村副代表



クラブプロフィール

設立年月日 平成27年3月27日

所在地 神奈川県伊勢原市成瀬地区

運営 会員数 122名(平成30年4月現在)

予算規模 500万円

有給職員 2名

特徴 育児世代を中心にシニアも参加できる教室を実施しています。女性参加が多いクラブなので、開催日・時間帯・参加費等、地域の行事等を把握して計画を立てています。教室内容も毎年アンケートで参加者に聞くことはもちろん、講師の方とも話し合い、その時に合ったものを継続的に行えるよう運営委員会等の場で話し合っています。市のスポーツ課とも連携し、イベント等を共同で開催したり、情報共有を行いクラブ運営に役立っています。スタッフも参加者同様、子どもがいるスタッフがたくさんいます。だからこそ出来ることを見つけ、日々のクラブ運営をより良いものにするために頑張っています。

連絡先 TEL 070-6555-6936

E-Mail i.fulesupo@gmail.com

URL <http://i-fulesupo.jimdo.com/>



特別企画

女性が活躍するクラブ・連絡協議会



SCネットワークあいち 〈愛知県名古屋市〉



総合型クラブの活動基盤・活動環境をより充実させるためには、地域住民から必要不可欠な存在であると認識されることが重要であり、そのためには、地域づくりまでも視野に入れ、スポーツの「楽しさや喜び」を拡充し普及させる「公益的な活動」を行うことが求められます。

したがって、クラブ運営を担う人材は、クラブマネジメントに関する一定の知識・技能に加え、幅広い視野と見識を培い、地域住民と共に地域課題の解決ができる資質・能力を重視する必要があります。

そこで、今回は女性の視点をクラブ運営に取り入れ、女性が多く活躍する仕組みをつくる都道府県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（以下「連絡協議会」という。）やクラブの取り組みを紹介します。



1 連絡協議会概要

平成23年に設立されたSCネットワークあいちは、全国で最後に設立された連絡協議会です。総合型クラブによる総合型クラブのための中間支援組織を目指して、年間に運営研修会を2回、クラブ交流会を1回実施し、そのほかにも加盟クラブを対象として、クラブ内での研修事業に対して補助金を出す「クラブ内研修会応援事業」や、日本スポーツ協会公認マネジメント資格を取得した際に申請できる「マネジメント資格取得補助事業」など、加盟クラブにメリットとなる事業を実施しています。

しかしながら、SCネットワークあいちは任意での加盟となっているため、現状では加盟率は高くありません。よりよい事業を実施して行く中で、納得して加盟するクラブが増えていくことを目指している状況です。



2 「SCネットワークあいち女子会」 旧知3人の女性が発案・始動

クラブの事務局で活躍する女性が増えていく中で、愛知県内の女性スタッフが全国での研修会に出会うこともあり、県内の総合型クラブで働く女性同士で気軽に話せる場が欲しいという声を聞くようになりました。中でも、認定NPO法人朝日丘スポーツクラブの北垣さん、NPO法人スポーツクラブいっしきの田中さん、NPO法人生き生きかにえスポーツクラブの照内さんの3名は「SCネットワークあいち女子会」(以下「女子会」という。)を始める前から全国の会議や研修会で知り合っており、女子会を始めるきっかけとなった方々です。女子会を実行するには、まずこの3人のスケジュールを確認してから、日程を決めるようにしています。

3 議論よりも意見交換と情報交換を優先

①集まりやすい月曜日に設定、場所も工夫

現状、女子会は年に1回、12月の中旬に行っています。平成27年度に初めて実施し、これまでに3回開催しています。初年度は平日の夜に開催し、出席者は5名でした。会自体は大変盛り上がったのですが、人数が少なかったため、次年度は多くの人が集まれる日程にすることを念頭に企画しました。「家庭を持つ女性は、夜は出にくい」という意見や、「クラブ事務局が休みの日なら出られるかも」という意見を踏まえ、2回目の平成28年度は県内クラブで事務局がお休みのところが多いという理由から、月曜日のランチタイムに食事をしながらクラブについて話し合う形にしました。

また、会議室での研修会という構えて引いてしまう女性もいると思い、名古屋駅のツインタワーのレストラン街という場所を設定し、「女子会のついでに名古屋でお買い物」や、「久々に名古屋に行ってみたいな」という気軽な感覚で来てもらえるよう、極力ハードルを低く設定することを心がけました。結果は9名の参加となり、前年度より多くの人に参加していただくことができました。

クラブについていろいろなお話、女性同士でまじまじに事務局での受付・対応体験や、総合型クラブについての様々な疑問など現場で活躍されている方々ならではの意見が出ることも間違いなし！昨年出席された方はもちろん、初めての方も是非ご出席ください！！

日時：平成29年12月11日（月）
11:00～13:00

場所：名古屋駅 セントラルタワー3階
手作り料理とお酒 えん

会費：1500円前後（ランチ代各自）

申込：出席希望の方は、12月6日（水）までにRmailにて、下和連絡先まで、クラブ名、出席希望日、出席者数をお知らせください
*出席者の調整等は事務局にのみ対応します

問合せ・お申込み
山田（愛知県体協：クラブアドバイザー） 携帯090-1727-8265
TEL: 052-264-1010 FAX: 052-264-0909
Rmail: scnet@scnet.com

女子会チラシ



②女性の参加の難しさも実感

女子会では内容をきっちりと決めて議論するというよりは、それぞれのクラブで課題となっていることについて、それぞれが意見交換するという形をとり、クラブに関する情報交換や運営していく中で困ったことなどをフランクに話しています。ここで問題を解決するというよりは、情報の共有と、県内総合型クラブでの知り合いを増やしてもらい、今後につなげてもらうことを目的としています。2回の経験を生かして、3回目となる平成29年度も同様の形で実施し、2回目よりもっと多くの人に参加してくれることを期待したのですが、結果は6名となり、より多くの女性に参加してもらうことの難しさを感じている次第です。今年度も同様に実施する予定ですが、クラブに関わっている女性には、お手伝いのような形でスタートして、事務局の中での仕事に集中し、外で活動するのは苦手という方も多いようなので、そういった方にも気軽に参加していただけるように企画をしていきたいと考えています。

4 他クラブの情報を共有 運営委員会では女性ならではの視点も

男性だけの協議会に女性が加わり、柔軟な雰囲気

女子会を実施したことで、急激に変化があったわけではありませんが、女子会に参加して顔なじみになった方々がSNSなどでつながって、お互いのクラブの情報を共有したり、面白い企画を行っている他クラブの事業を真似したりしているようです。クラブに関わっている女性は好奇心が強く、実行力があるということをヒシヒシと感じます。また、女子会の中心メンバーとなっていていただいている3名の方々には、昨年度よりSCネットワークあいちの運営委員となっていていただいています。女性ならではの視点でアイデアを出していただき、運営委員会でも活躍されています。女性同士で話し合うのも大切ですが、協議会などの組織運営の場では男女関係なく議論をしていくことが大切ですので、出された意見を柔軟に受け止められる会議の雰囲気が重要だと感じています。現在では、男性だけで会議を行っていた時よりも、柔らかい雰囲気となっている印象です。



5

女子会の参加者増が課題 情報・人脈をクラブ活動にどう生かすか

①「個人の集まり」として開催→参加のハードル下げ参加者増を目指す

現在の女子会は、SCネットワークあいちの事業としてではなく、加盟クラブの女性を対象として、「クラブのことを話しながら食事をする個人の集まり」としての位置づけです。研修会などの事業にすると堅苦しくなったり、気軽に参加してくれる女性が少なくなってしまう可能性もあるので、現在のスタイルをしばらくは続けたいと思っています。もし女性スタッフの研修会が必要となれば、別の機会として研修会を実施したいと考えています。また、女子会のメンバーが固定してしまうと、情報交換の内容が偏ってしまう場合があるので、毎年新たな方に参加してもらえよう、クラブアドバイザーによるクラブヒアリングの場などで女性スタッフを見つけては声をかけるようにしています。知らない人の集まりに飛び込んでいくのは誰しも勇気のいることですので、そのハードルを少しでも下げて、参加していただいた方々が女子会で得た情報や人脈をクラブの活動に生かしていただきたいと思っています。

②女性役員初登用の際は複数人の登用が効果的

SCネットワークあいちでは平成29年度の役員改選で役員10名の内4名が女性（運営委員3名、監事1名）となりました。それまでは役員は全員男性でしたが、役員改選会議の際に女性役員さんを登用してはどうかと提案したところ、ある役員さん（男性）から、「女性を役員にする際には1人ではだめ。2人以上にしないと女性は本来の実力を発揮できない」という趣旨の発言がありました。一見、女性の能力を低く見ているような発言ですが、これはすごく的を得ていると実感しています。実際に運営委員会でも女性が3名いるからこそ、意見が出しやすくなっているということを感じています。女性は同意を得られると安心して発言ができます。男性が多数いる中で女性1人では意見を出しにくいと感じますので、今後女性役員の登用を考えている組織の方々は、複数名の女性役員の配置をおすすめします。また、女性ならではの視点や意見を快く受け入れていただける、男性メンバーの存在が重要であることは言うまでもありません。男女関係なく意見が出やすい雰囲気づくりや、誰が出した意見でも皆が受け止め、実行していくことが大切だと思います。



③全国の連絡協議会と情報交換→加盟クラブに役立つ事業を展開へ

今後のSCネットワークあいちの展望としては、加盟クラブの方々には事業にどんどん参加してもらうことで加盟のメリットを感じていただき、まだ加盟していないクラブの方々に誘っていただくことで加盟クラブ数を増やしていきたいと思っています。加盟クラブが増えることで、資金が充実していけば連絡協議会としての事業も更に充実したものになると考えておりますので、今後も加盟促進を働き掛けていきたいです。また、全国の連絡協議会の方々との情報交換を通して、他の連絡協議会がどのような事業を実施しているか等を知り、SCネットワークあいちの事業に生かしていきたいと考えています。

連絡協議会は総合型クラブにメリットとなる事業を考え、実行していく組織だと考えています。事業規模も会員数も活動エリアも異なる、大小さまざまな総合型クラブが加盟している中で、すべてのクラブに役立つ事業を考えるのは決して簡単ではありませんが、「加盟していてよかった」と思ってもらえる協議会となれるよう、今後も事業を考案・展開していきたいと思えます。

SCネットワークあいち事務局(愛知県体育協会クラブアドバイザー) 山田 瞳

協議会 プロフィール

設立年月日 平成23年11月13日

所在地 愛知県名古屋市

運営 加入クラブ数33(平成30年3月現在)、
予算規模761,000円(平成30年度)

特徴 総合型クラブによる総合型クラブのための中間支援組織を目指して活動をしています。
設立は平成23年と全国でも後発の連絡協議会ですが、設立当初より会費(年会費1万円/予算規模1000万円以下、2万円/予算規模1000万円以上)を徴収して活動の原資としています。任意加入のため加入クラブが少ないのが現状ですので、よりよい事業を実施し、クラブの加入率を上げていくことが課題です。

連絡先 〒460-0007 愛知県名古屋市中区新栄1丁目49-10
TEL 052-264-1010 FAX 052-264-0909
E-Mail yamada@aichi-sports.or.jp
URL <https://scnetaichi.jimdo.com/>





連載

みんなで盛り上げよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

未来につながる【東京2020応援プログラム】



～全国から東京2020大会を盛り上げよう～



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）の盛り上げ、大会後のレガシー創出を目指し、2020年に向けてオールジャパンで取り組む参加型のプログラムである「東京2020参画プログラム」（以下「参画プログラム」という。）。2016年10月から開始された同プログラムは、図1のとおり、「東京2020公認プログラム」（以下「公認プログラム」という。）と「東京2020応援プログラム」（以下「応援プログラム」という。）に分けられ、2017年7月からは、「応援プログラム」の対象を全国の非営利団体等に拡大し、全国の総合型クラブも、「応援プログラム」に申請できるようになりました。

そこで、今回は、同プログラムを所管する公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）企画財務局アクション&レガシー課スポーツ・健康チームの皆様から、全国の総合型クラブが申請できる【応援プログラム】の概要や魅力、活用方法についてお話を伺いました！

<2つのプログラム>



図1【出典：東京2020参画プログラムについて（2017年1月：組織委員会）】



●参画プログラムとは

東京2020大会は、大会ビジョンと3つの基本コンセプトが掲げられています。

大会ビジョン
「スポーツには世界と未来を変える力がある」

コンセプト
「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」

この大会ビジョンとコンセプトを基に、日本国民の方々が、東京2020大会に参画(アクション)し、そのアクションの成果を未来につなげていく(レガシー)ことを目指し「アクション&レガシープラン2016」を策定しました。そして、このプランを達成するために、様々な組織・団体がオリンピック・パラリンピックとつながりを持ちながら、大会に向けた参画・機運醸成等に向けた「アクション」を実施できる仕組みが「参画プログラム」です。

「参画プログラム」には「公認プログラム」と「応援プログラム」があり、地域の非営利団体等を対象とし、より多くの方々が参画できることを目指すものが「応援プログラム」です。

●「応援プログラム」として認証されることで、クラブ・地域に様々な効果を創出できる

例えば、総合型クラブで「健康寿命の延伸を目的とした健康運動教室」を組織委員会に申請し、「応援プログラム」として認証された場合、どのようなことができるのかを紹介します。※1

「応援プログラム」として認証された事業は、図2の東京2020応援マークを使用することや、「オリンピック・パラリンピック」等の文言を使用することができます(一部使用制限あり)。※2
つまり、「応援プログラム」として認証されることで、東京2020大会とのつながりができ、地域の方々に対し、クラブの存在やクラブの事業をPRできる他、東京2020大会の機運醸成に貢献したという実績となります。また、地域の複数のクラブや自治体等の他団体と連携したイベント等を「応援プログラム」として実施することで、地域のつながりの強化や地域の未来を共に考えるきっかけづくりとなる可能性もあります。

もしかすると、クラブの関係者や会員さんの中には、「オリンピック・パラリンピックに関わりたけれど、地方だから難しい・・・」等とされている方もいらっしゃるかと思います。そのような方が、「応援プログラム」として認証されたクラブの教室やイベントに参加したり、ボランティアとして活動したりすれば、たとえ東京に行かなくても、東京2020大会に参画したと言えるのではないのでしょうか。

※1 応援プログラムの具体的な申請方法については、[コチラ](#)

*日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会加入クラブにおいて、日本スポーツ協会を通じた「東京2020応援プログラム申請手続き」を希望した団体に対しては、後日、都道府県総合型クラブ連絡協議会を通じて申請方法をご案内いたします。

※2 応援マーク等の使用に係る留意事項等については、[コチラ](#)



図2【東京2020応援マーク】



●「応援プログラム」に申請できる取組は、スポーツに限らない

「応援プログラム」に申請できる取組は、スポーツに限られません。図1の8つの分野にてそれぞれ設定されているレガシーコンセプト※3のいずれかに合致する取組であれば認証しております。例えば、公益財団法人横浜市体育協会は、「応援プログラム」として、図3のとおり東京2020大会開催1000日前に千羽鶴を作るというイベントを実施しました。これは、1964年の東京オリンピックの競技会場となった横浜文化体育館において、大きな「2020」年モニュメントを作り、日本の文化で世界に向けて東京開催を盛り上げるというコンセプトのもと実施しており、8つの分野の中の「文化」分野にて「応援プログラム」として認証されています。

また、「応援プログラム」として、「障がい者スポーツの体験会」や「障がい者スポーツの観戦ツアー」等を実施している団体もあります。

既に全国各地で多くの団体等が様々な「応援プログラム」を実施しております。ぜひ下記URLから全国の「応援プログラム」の事例をご覧ください、「応援プログラム」を活用するうえでの参考としてください。

★全国の参画プログラムについては、[コチラ](#)

※3 8つの分野におけるレガシーコンセプト等については、[コチラ](#)



図3【応援プログラムに参画した方々が作成した鶴を、横浜文化体育館に集め、フロアに「2020」の数字を描いた】(提供:公益財団法人横浜市体育協会)

★その他プログラムのご紹介★

「公認プログラム」～都市鉱山からつくる！みんなのプロジェクト～

東京2020大会のメダル約5000個を都市鉱山である携帯電話など使用済み小型家電から制作する大会史上初めての試みとなるプロジェクトです。www.toshi-kouzan.jp/

「特別プログラム」2020応援プログラム(祭り)

日本の伝統文化である祭りを通して、東京2020大会の機運醸成・盛り上げにつなげるための特別プログラムとして東京2020応援プログラム(祭り)を作りました。特定の企業や商品をPRする目的ではなく提供される飲食・物販(屋台等)は可能となっており、また「祭り」用の特別マークを用意しています。あなたの街のお祭りを応援プログラム(祭り)にぜひ申請してください。

詳しくは組織委員会HPの「祭り」ガイドライン(2018年度版)をご確認ください。

https://participation.tokyo2020.jp/jp/data/matsuri_guideline_201803.pdf



●クラブの既存の取組が「応援プログラム」として申請できる

総合型クラブは、特に「スポーツ・健康」分野にて、既に実施しているスポーツ・健康教室等を「応援プログラム」に申請することができます。

もしかすると、「応援プログラム」に申請するために、新規事業を考えようとする方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、例えば「スポーツ・健康」分野のレガシーコンセプトの一つとして、【誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現】があり、対象となる取組内容には、「スポーツ参画人口の拡大とスポーツ関連産業の発展」や「スポーツ(運動)の力による健康づくりの推進」等が掲げられています。

つまり、多くのクラブが普段から実施している教室やイベント等が、まさに「応援プログラム」に申請できるのです。

また、昨年度の日本スポーツ協会メールマガジンの連載企画でも取り上げられている「英会話教室」や「ゴミ拾い活動」は、「教育」や「持続可能性」の分野にて「応援プログラム」に申請いただけます。

応援プログラムとして考えられる取組例

競技体験会		ボランティア養成	
クラブ独自の競技体験会開催(1日疑似体験)		主催イベント等におけるボランティア養成(英会話等)の講習会等を実施	
参加国の応援	合宿国の応援・交流	地域の文化の発信	
応援メッセージの作成 (クラブ会員一人一国応援運動)	クラブイベントへの招聘	地域独自の文化を全国・海外に伝える	
トップアスリート(オリンピック等)との交流事業		次世代アスリートの発掘・育成事業	
主催イベント等におけるアスリートの派遣・交流		交流大会やイベント、体験会等を通じた発掘・育成	
障がい者スポーツの導入	障がい者スポーツ指導者養成	パラリンピアンとの交流事業	
障がい者団体等との連携事業 (健常者と障がい者の交流)	障がい者スポーツに係る講習会の実施	パラリンピアン派遣による教室、イベント等の実施	



●総合型クラブの日々の取組がレガシーになる

東京2020大会を契機に、色々な形でスポーツに携わりたいと考える方々が増えると思います。例えば、ボッチャの試合をテレビで見て、ボッチャをやりたいと思う方がいたときに、地域でボッチャができる場所があることは素晴らしいことではないでしょうか。

また、スポーツに限らず、例えば、「ゴミ拾い活動」は、地域で今すぐにでも取り組める活動です。東京2020大会をきっかけに「ゴミ拾い活動」を実施し、その取組を大会後も継続的に実施することでレガシーとなります。

総合型クラブは、それぞれ様々な特色を持つことから、8つの分野における「スポーツ・健康」のみならず、「文化」「教育」「持続可能性」等、多くの関わりを持てるという強みがあります。全国の総合型クラブが「応援プログラム」に申請することにより、東京2020大会への機運醸成への大きなムーブメントとなるとともに、総合型クラブの存在が、大会コンセプトにある「未来への継承」につながることを期待しております。

●「参画プログラム」の今後の展望

「参画プログラム」は、「応援プログラム」「公認プログラム」を合わせ、現在、1400団体に4万件の「プログラム」が実施されており、全国で3000万人を超える方々が参加するプログラムとなっています。

今年は大会マスコットの正式発表、大会ボランティア募集、チケット販売開始、2年前・500日前イベント等、大会に向けて多くの行事を予定しています。

日本全国の皆さまの多くの参画により東京2020年大会へのワクワク感を一緒に作りあげていきましょう！ぜひオールジャパンでの大会成功に向けご協力をお願いします。



今回お話を伺った組織委員会の方々
写真左から/斎藤秀美氏、佐々木啓二氏、藤田善三氏、村田清顕氏





助成金情報

第12回 スポーツ教材の提供

【実施団体】（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団

身体の神経が急速に発達する幼少期には、体を動かすことの楽しさを知り、好きになることが、まず大切であるといわれています。子どもたちが「体を動かすさまざまな活動」に参加するきっかけづくりとして教材を活用していただくため、サッカーボールとタグラグビーセットを提供します。

【申込期間】 平成30年4月13日(金)～6月8日(金)

財団ホームページの「平成30年度 スポーツ教材提供募集申請フォーム」に入力の上、申請します。

<http://www.ymfs.jp/project/support/supply/h30/guideline/>

エネルギア文化・スポーツ財団 平成30年度後期募集助成金情報

【実施団体】（公財）エネルギア文化・スポーツ財団

中国地域に所在する文化、スポーツに関する団体が主催し、中国地域在住者が過半数を占める活動で、中国地域内において行う活動を対象とします。

【申込期間】平成30年5月1日(火)～6月20日(水) ※当日消印有効

申込書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、簡易書留にて郵送します。

<http://www.gr.energia.co.jp/bunspo/application/cat1.html>

平成30年度ヨネックススポーツ振興財団助成事業【後期】

【実施団体】（公財）ヨネックススポーツ振興財団

青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつその活動を3年以上継続して実施し、交付対象の要件を満たしている団体を助成します。

【申込期間】 平成30年6月20日(水) ※当日消印有効

交付申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、対象団体であることを証明する書類を添付して、郵送で申請します。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>

平成30年度子どもゆめ基金助成金＜二次募集＞

【実施団体】（独）国立青少年教育振興機構

子どもの健全な育成を図ることを目的に、平成30年10月1日から平成31年3月31日までの間に行われる子どもの各種体験活動に対する助成を行います。

【申込期間】 郵送および窓口持ち込み／平成30年5月1日(月)～6月5日(火)※当日消印有効

電子申請／平成30年5月1日(火)～6月19日(火)

郵送や宅配便の場合は、申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、簡易書留など配達記録の残るものを利用します。封筒には「申請書在中」と記入します。

<https://yumekikin.niye.go.jp/jyosei/index.html>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

平成30年4月1日「日本体育協会」は「日本スポーツ協会」へ名称が変わりました

社会のスポーツへの関心や期待がますます高まっていく中で、本会がわが国、スポーツの統一組織として、多くの人々のスポーツ参画を促し、スポーツという文化を後世に継承していくには名称を変更することがよりふさわしいと考えました。

詳細については、こちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/index/news/tabid/92/Default.aspx?itemid=3551>

総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018策定

日本スポーツ協会全体の今後5年間の事業推進方策である「日本スポーツ協会スポーツ推進方策2018」に基づいた総合型地域スポーツクラブ育成に係るアクションプランとして「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」を策定しました。ぜひご覧ください！

育成プラン2018の概要については、こちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid394.html>

2018年度ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト始動

日本スポーツ協会は、全国の将来性豊かなアスリートを発掘するためのプロジェクトとして、今年度も「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」(略称「J-STAR PROJECT」)を実施いたします！

本事業では、未知なるポテンシャルを秘めた子どもたちや障がい者を、地域から世界へ挑戦するパスウェイ(道筋)に導くことを目的に、昨年度から実施している事業となります。

日ごろ、多競技多種目を実施されている総合型地域スポーツクラブの指導者の方に本事業を知っていただき、子どもたちの新たな可能性への挑戦の機会に活用いただければ幸いです。

○対象者

オリンピック競技: 中学生・高校生年代

パラリンピック競技: 中学生年代以上

○対象競技

オリンピック競技(6競技種目)

- ・水泳(飛込)
- ・ボート
- ・ウエイトリフティング
- ・ハンドボール(女子)
- ・7人制ラグビー(女子)
- ・ソフトボール(女子)

パラリンピック競技(5競技種目)

- ・ボッチャ
- ・水泳(身体障がい)
- ・パワーリフティング
- ・車いすフェンシング・自転車

今現在、この競技種目を
やっていなくても大丈夫!!
「ちょっと面白そう!」
「この競技やってみたい!」
と思ったらwebへ!



○今後のスケジュール

7月2日～	エントリー(オンラインフォームへ入力)受付開始
9月～11月	測定会(オリンピック競技全国9会場 パラリンピック競技全国5会場)
12月～(H31)10月	各拠点県におけるトレーニング

プロジェクト実施概要についてはこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/Jstaroutline.PDF>

プロジェクトの詳細についてはこちらから

<https://www.j-star.info/>

公認スポーツ指導者資格情報

平成30年度公認クラブマネジャー養成講習会 受講者募集中

日本スポーツ協会では、総合型地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ会員が快適なスポーツライフ(クラブライフ)を送ることができるよう、経営資源を適切に確保し、円滑に活用するために必要なマネジメント能力を有する人材を養成することを目的として、クラブマネジャー養成講習会を開催しています。

受講希望者は、指導者マイページから本養成講習会へお申込みいただけます。

※公認アシスタントマネジャー資格の保有が条件となります。

クラブマネジャー養成講習会 詳細はこちら(本会HP)

<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid/221/Default.aspx>

平成30年度公認クラブマネジャー養成講習会 開催概要

日時	前期 平成30年8月30日(木)～9月2日(日)
	後期 平成30年10月26日(金)～28日(日)
会場	TKP 田町カンファレンスセンター
申込期限	平成30年5月24日(木)

平成30年度公認アシスタントマネジャー養成コース実施予定団体一覧を掲載!

公認アシスタントマネジャーは、総合型クラブなどにおいてクラブ会員が充実したクラブライフを送ることができるようクラブマネジャーを補佐し、クラブ運営のための諸活動をサポートする方を対象とした資格です。

平成30年度の公認アシスタントマネジャー資格概要および資格取得のための養成コース実施予定団体はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid220.html>



セミナー情報

平成30年度総合型地域スポーツクラブ ヒューマンエラー防止研修会開催

心理的アプローチからリスクマネジメントを学ぶことで「ヒューマンエラー（事故や損害の原因となる人為ミス）」の防止に係る意識の啓発を図り、安全・安心なクラブ経営に資することを目的に全国10会場でヒューマンエラー防止研修会を開催します。

平成30年度の開催会場はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1073.html>

ブロック別クラブネットワークアクション2018開催

【日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催します。

開催日時・場所等詳細については以下のURLを参照ください。

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid508.html>

第1回ジュニアスポーツフォーラム開催

ジュニアスポーツに関わる指導者及びスポーツ少年団リーダーの資質向上を図るとともに、スポーツ活動に欠かすことのできない安全・安心な環境の整備に資するために、指導者・リーダー及び法律実務家、研究者を一堂に会し、フォーラムを6月17日(日)に東京都内で開催します。

開催日時・場所等詳細については以下のURLを参照ください。

<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid287.html>

【申込締切】平成30年5月25日(金)

幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会開催

日本スポーツ協会(日本スポーツ少年団)が平成26年度に作成した、幼児及びその保護者等を対象にした活動プログラム「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」の効果的な活用法を周知することを目的に、地域のスポーツ少年団関係者等を対象とした講習会を開催します。

開催日時・場所・申込方法等詳細については以下のURLを参照ください。

<http://www.japan-sports.or.jp/club/tabid1061.html>

熱中症対策情報

これからの季節、屋内外の運動で特に気をつけたいのが熱中症。

スポーツによる熱中症はしっかりとした予防をすれば防ぐことができます。

熱中症対策をしましょう！

熱中症の病型と救急処置

スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック等についてはこちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/medicine/tabid/523/Default.aspx>



ラグビーワールドカップ2019™日本大会情報

来年、アジアで初、ラグビー伝統国以外で初となるラグビーワールドカップが、この日本で開催されます。世界最高峰のラグビーをぜひお楽しみください。

開催期間 2019年9月20日(金)～11月2日(土)

参加チーム 20チーム

(1) 前回大会成績によって出場権を獲得しているチーム:12チーム

(2) 予選によって出場権を獲得するチーム:8チーム

試合形式 (1) プール戦 5チーム×4プール(プール内総当たり戦):40試合

(2) 決勝トーナメント 準々決勝／準決勝／3位決定戦／決勝:8試合

試合会場 日本全国12会場

開催都市 札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、東京都、神奈川県・横浜市、静岡県、愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、神戸市、福岡県・福岡市、熊本県・熊本市、大分県

大会の詳細はこちら

<https://www.rugbyworldcup.com/>

大会公式ボランティア募集中

<https://www.rugbyworldcup.com/volunteers>

チケットの情報はこちら

<https://tickets.rugbyworldcup.com>

